

## 第四項 大正三、四年以降時代

## 第一目

自大正三年  
至大正八年（六年式魚雷出生時代）

大正三年世界大戰ノ勃發スルヤ列國舉ゲテ兵器ノ更進ニ急ナリ而シテ歐洲方面ニ在リテハ魚雷兵器ニ關スル限リ依然トシテ英海軍之ガ先頭タルノ狀勢ニ在リシモ獨海軍魚雷ガ其ノ裝藥量已ニ約一八〇斤タルニ鑑ミ英ニ在リテハ裝藥量ノ増加ト共ニ射程ノ増進ニ銳意シ開戰後間モナク所謂E、R魚雷ノ如キモノヲ出現スルニ至レリ此ノ間我海軍ニ於テモ四四式五十三糎魚雷ニ満足スベカラザルヲ認メ之ガ研究ニ腐心セシガ在來ノ四四式五十三糎及同四十五糎魚雷即チ同一號魚雷ノ裝藥量ノ不足ヲ感ジ不取敢其ノ裝藥量ヲ前者ハ一六〇斤（在來ノモハ一三〇斤）後者ハ一一〇斤（在來ノモノハ九五斤）ニ増加シ更ニ若干局部ノ改造ヲ加フルコトトシ之ヲ二號魚雷ト稱シ新製ノモノハ主トシテ此ノ型式ニ依ルコトトセリ尙右ノ外射程増進ノ目的ヲ以テ四四式五十三糎魚雷ニ在リテハ在來ノ清水罐燃料罐位置ヲ交互ニ變更シテ清水量ヲ増大シ亦四十五糎魚雷ニ在リテハ更ニ清水罐、外部油罐ヲ増設スルノ手段ヲ講ジ

尙佐世保工廠試製ニ係ル英海軍式給氣法及排氣法應用ノ有利ナルヲ認メ之ヲ本型魚雷ニ應用改造スル等當面ノ要求ニ應ゼリ之ヨリ先上記四四式五十三糎魚雷ニ比シ尙一層有力ナル魚雷ヲ得ベク考慮スルトコロアリシガ當時艦政本部員タリシ海軍少佐油谷堅藏ハ差當リ全長六、八五米ナル主力艦水中發射管ニ使用シ得ル最大限度ノ長サヲ採リ四四式魚雷ニ比シ清水及燃料ノ大増加ヲ期シ一萬五千米三十節ヲ目途ニ新魚雷ノ梗概ヲ案畫シ吳工廠ヲシテ更ニ専門的計劃ヲ爲サシメ大正四年之ガ試製ニ着手セルモノハ所謂後日ノ六年式五十三糎(當初假稱四年式)魚雷ニシテ全長六、八四米、裝藥量一八〇斤、一七〇氣壓ノ要目ヲ有シ大正六年秋季試發射ヲ爲スニ至レリ其ノ成績ハ實ニ左ノ如クニシテ當時ノ魚雷界ニ劃期的衝動ヲ與ヘタルモノナリ

射程	雷速	偏斜
一五〇〇〇米	二六、〇節	左一二米
一〇〇〇〇米	三三、〇節	〇
五〇〇〇米	四三、〇九節	
四〇〇〇米	四四、九四節	

尙六年式魚雷ノ完成ニ就キ附言スベキハ當時吳海軍工廠ニ於テモ四四式魚雷改造案研究中ニシテ海軍造兵大技士松下正泰主トシテ之ニ當リツツアリシガ偶々前記當局ノ提案ニ接シ同造兵大技士ハ從來ノ

研究ヲ加味シ之ガ完成ノ衝ニ際リシモノナリ此ノ間ノ消息ハ左記海軍大臣ヨリ内閣總理大臣宛ノ上奏文ニ依リ窺知シ得ベシ

海軍造兵少監 松 下 正 泰

右者大正三年度魚雷調査會決議ニ依リ吳海軍工廠計畫(計畫者同官)ノ全長六米八四〇魚雷ノ計畫試製ニ着手シ爾後三箇年有餘心血ヲ傾注シ絶大ノ努力ト不撓ノ忍耐ヲ以テ作業ニ從事シ大成ヲ遂ゲ大正六年横須賀海軍工廠ニ於ケル最終試験ノ結果優秀ノ成果ヲ舉ゲ以テ我が海軍魚雷ヲシテ列國ニ卓絶セシムルニ至ラシメ大正六年十月六年式魚雷トシテ兵器ニ採用セラレ目下新艦用トシテ製造セラレツツアリ右ハ軍事上帝國海軍ヲ裨益スルコト實ニ偉大ニシテ其ノ功績特ニ顯著ナルモノト認め候ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ叙勳五等双光旭日章ヲ下賜セラレ度此段及上奏候也(大正七年七月二十六日附)

尙六年式魚雷ノ完成ニ就テハ海軍技師山下茂太郎專ラ製造上ノ事ヲ擔當シ途中遭遇セル萬般ノ支障ニ對シ微細ナル機構ト作働上ノ改善ニ努力セル効績ハ特筆ニ値ヒスルモノナリ

右六年式魚雷ノ計畫ト相前後シ海軍少佐丹野武雄ハ組立式魚雷ナルモノヲ考案セシガ其ノ主旨トスルトコロハ主動機關ノ強度及耐熱ヲ大ニスル爲之ヲ在來ノ如ク單塊ノ鑄物ト爲サズ必要ノ個所ニハ鋼銅若クハ青銅等任意ノ材料ヲ使用シ隨時部分的交換修補ノ便ヲモ考慮セルニ在リテ魚雷改良調査委員會ニテ詮議ノ上佐世保工廠ニ於テ試製シ四年八月以來數十回ノ實驗發射(射場ノ關係上豫想發射ノミヲ行フ)ヲ試ミタルニ其ノ成績既成ノ各種魚雷ニ比シ優越セル點アルヲ認め更ニ技術會議ニテ研究ヲ續行シ同年十一月横須賀ニテ實驗發射ヲ行ヘシガ本實射成績ハ必ズシモ豫期ニ達セズ又其ノ機構ニ於テ

モ將來ノ實驗ニ依リ改良スベキ點アルヲ認メシモ大體ニ於テ既成各種魚雷ニ比シ優越ノ點アルハ爭フベカラズト爲シ差當リ各工廠ヲシテ若干ノ試製ヲ爲サシメ學校艦隊等ニ實驗セシメ實用上ノ適否ヲ檢セシムル豫定ナリシガ前記六年式魚雷ノ試檢成績(吳工廠ニテ試製實驗中ノ假稱四年式ヲ云フ)一般ニ優秀ナリシ爲本魚雷ハ遂ニ採用ヲ見ズシテ終レリ

大正七年前後ニ於ケル魚雷關係附屬兵器ノ現狀及實驗研究中ノ主要ナルモノヲ掲記シ參考ニ供ス

(一) 六十一糧(二十四吋)魚雷

技本案ニ依ルモノハ已ニ佐世保工廠ニ於テ試驗ヲ了シ最近「タンク」試驗並ニ冷走發射試驗ノ結果ニ依リ一部ノ改造ヲ行ヒツツアリ又別ニ横須賀海軍工廠ニ計畫試製ヲ命セルモノハ目下製造中(後記第二目參照)

(二) 五十三糧(二十一吋)魚雷

先ニ採用セラレタル六年式五十三糧魚雷ハ遠近發射成績佳良ニシテ今日迄ニ得ラレタル能力左ノ如シ(當時未ダ艦船ニ供給セラズ)

射程	一五〇〇〇米	速力	二八、〇節
同	五〇〇〇米	同	四三、〇九節
同	四〇〇〇米	同	四四、九四節

(三) 既成四四式五十三糧魚雷ノ能力増進

英海軍式傘形弁及排氣法ヲ利用シ能力及命數増進ノ見込充分ナリ

(四) 潜水艦用短魚雷(五十三糧徑)

吳工廠ニテ試製中、要目大要左ノ如シ

(b) 四十五糎(十八吋)魚雷  
 全長 五、〇八八米  
 裝藥量 二五〇斤

裝氣量 一七〇氣壓  
 豫想速力(射程) (二〇〇〇米) 三八節

(1) 既成四四式四十五糎魚雷ニ英海軍式傘形弁及排氣法利用ノ方針ヲ定メタル外新實驗魚雷ニ關シテハ其ノ後ノ進捗充分ナラズ  
 (2) 潜水艦特用四十五糎魚雷ハ同用五十三糎魚雷ト共ニ目下吳工廠ニテ試製中ナリ左ノ如シ

全長 五、〇八八米  
 裝藥量 一八〇斤

裝氣量 一八〇氣壓  
 豫想速力(射程) (一五〇〇米) 三八節

(a) 飛行機用四十五糎魚雷

目下横須賀工廠ニテ試製中ニ屬ス要領左ノ如シ

全長 三、七八〇米

裝氣量 一五〇氣壓

裝藥量 七〇斤

豫想速力(射程) (一〇〇〇米) 三〇節

豫定重量 四〇〇斤

(a) 魚雷關係重要實驗中ノ事項(單ニ項目ノミニ止ム)

(1) 四十五糎魚雷用演習兼衝突頭部

(2) 五十三糎魚雷用演習兼衝突頭部

(3) 魚雷裝藥爆力増加實驗

(4) 魚雷ニ酒精混用清水並ニ酸素混用空氣ノ利用

(5) 雷速精測計及深々度魚雷